目　　次

まえがき …… 2

教育実習の心得 …… 3

授業観察記録について …… 5

参加記録について …… 6

授業実習記録について …… 7

実習校の概況 …… 11

実習学級の概況 …… 12

教育実習予定表 …… 13

時間表 …… 17

指導講話等の記録 …… 19

教育実習日誌・参加記録 …… 25

授業観察記録 …… 57

授業実習記録 …… 89

自由記録 …… 105

教育実習の感想と反省 …… 111

指導教諭の概評 …… 113

ま　え　が　き

教育実習における記録は，観察・参加・実習のいずれにおいてもきわめて重要な意義をもつものである。もちろん，記録そのものよりは観察それ自体，参加・実習それ自体が十分な成功をおさめることが，観察者や実習者の知識・技能を広め，理解・体験を深めるうえで大切であることは言うまでもない。しかし記録が，単に観察・実習の結果であると言いきることはできない。すなわち，観察や実習において，その目的，内容，方法等について記録をとらない場合よりは，記録をとる場合の方が一般に一層真剣な心構え，旺盛な研究心，細密な観察眼，深い考察等を要求する。このように，記録はたんに結果的産物であるばかりでなく，観察及び実習の態度や方法に逆影響を及ぼす。すなわち，観察・参加・実習目的の達成が一層効果的となるのである。

次に記録をとることにもう一つの重要な意義がある。それは，観察・実習結果の利用が記録によって容易になることである。観察・参加・実習記録の検討と反省は次の観察・参加・実習の改善につながる。したがって，記録はたんに書き並べるという態度でなされるべきでなく，その意義を十分に心得た上で，周到な用意のもとに書かれることが必要である。さもないと，かえって観察や実習の本体を失い，記録のための記録に堕しかねない。その意味からも，記録をとる前には「教育実習の手引」を熟読していただきたい。

「教育実習の記録」作成にあたっては，原則として，毎日の「教育実習日誌」は必ず記録するようにする。その他の「授業観察記録」,「参加記録」,「授業実習記録」などは最大限必要と思われる内容とページ数を含めてあるので，記録にあたっては，そのすべてを記録する必要はなく，内容をよく吟味して，記録に値するものに絞って記録するのがよい。